



Cisco TelePresence Management Suite 15.3

ソフトウェア リリース ノート

初版発行日 : 2020 年 9 月

はじめに

変更履歴

表 1 ソフトウェア リリース ノートの変更履歴

日付	変更内容	理由
2018 年 2 月	アップデート	Cisco TMS 15.3

製品に関する資料

製品のインストール、初期設定、および動作については、次のドキュメントを参照してください。

- [Cisco TelePresence Management Suite インストールおよびアップグレードガイド](#)
- [Cisco TelePresence Management Suite 管理者ガイド](#)
- [Cisco TMS 拡張機能導入ガイド](#)

15.3 の新機能

管理されるブリッジとしての Cisco Meeting Server のサポート

Cisco Meeting Server は、会議をスケジュールするための管理対象ブリッジとして Cisco TMS に追加できるようになりました。スケジューリングに Cisco Meeting Server を使用することの主な利点は次のとおりです。

- クラスタ化 Call Bridge で大量のコールを管理するための他に類を見ないほどのキャパシティ。
- 開始直前の会議に対するシングル ポイント障害が発生しない自動フェールオーバー（代替 IP が設定されている場合）。

[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > [システムの追加 (Add Systems)] から Cisco Meeting Server を追加でき、正常に追加されると、[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] で Cisco Meeting Server を確認できます。Cisco Meeting Server に IPv6 アドレスが設定されている場合は、Cisco Meeting Server をその IPv6 アドレスで追加することもできます。「[IPv6 アドレス]:ポート番号」の形式でアドレスを入力して、Cisco Meeting Server を追加します。IPv6 の場合ポート番号は必須です。

Cisco Meeting Server を追加するには、[ユーザ名 (Username)] と [パスワード (Password)] の入力は必須です。Cisco TMS では、複数の Cisco Meeting Server ブリッジを設定および管理できます。

Cisco TMS は Cisco Meeting Server バージョン 2.0 以降をサポートしています。Cisco Meeting Server は、IPアドレスまたはホスト名によってのみ追跡可能です。

設定

Cisco Meeting Server のシステム ステータスは [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > Cisco Meeting Server を選択 > [概要 (Summary)] の下で確認できます。

次のオプションが設定されていない場合、TMS は Cisco Meeting Server の [概要 (Summary)] ページでチケットをトリガーします。

- Cisco Meeting Server の初回追加時には、システム名は「名前なし (No Name) 」と表示されます。[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > Cisco Meeting Server を選択 > [設定 (Settings)] > [一般 (General)] の下の [名前 (Name)] フィールドにシステム名を入力します。
- [ドメイン (Domain)]、[数字 ID ベース (Numeric ID Base)]、[数字 ID の数 (Numeric ID Quantity)] フィールドが空白の場合、[設定 (Settings)] > [拡張設定 (Extended Setting)] より詳細を入力して保存してください。
- 事前設定された代替 IP がクラスタ化されたコール ブリッジの一部ではなくなった場合、[設定 (Settings)] > [設定の編集 (Edit Settings)] > [ネットワーク設定 (Network Settings)] > [代替 IP (Alternate IP)] ドロップダウンリストで代替 IP を選択し、ユーザ名とパスワードを入力して設定を完了します。

ダイヤル番号

ダイヤル番号を設定するには、次の手順を実行します。

1. [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > [Cisco Meeting Server を選択 (Cisco Meeting Server)] > [設定 (Settings)] > [拡張設定 (Extended Settings)] に移動します。
2. [ドメイン (Domain)]、[数字 ID ベース (Numeric ID Base)]、[数字 ID の桁数 (Numeric ID Quantity)] の各フィールドに適切な詳細情報を入力します。
3. [保存 (Save)] をクリックします。

ダイヤル番号の設定は頻繁に変更せず、必要な場合のみ変更することを推奨します。必要に応じて、ダイヤル番号の設定に変更を加える前に、次の手順を実行します。

- メンテナンス ウィンドウでのみ変更を行う。
- 将来の会議がスケジュールされている場合は、変更を加えた後に [診断ツール (Diagnostics Tool)] を実行する。
- 会議の進行中は [保存 (Save)] ボタンが無効になっていることに注意する。

WebブリッジのURI

WebBridge URI の設定は、[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > Cisco Meeting Server を選択する > [設定 (Settings)] で行います。

Web ブリッジ URI は、会議予約確認電子メールおよび [会議 (Meeting)] のランディングページに含まれています。このオプションを使用すると、ユーザは会議をクリックしてすぐに参加することができます。Web ブリッジ URI は、Cisco TMS では、Web ブリッジが Cisco Meeting Server で設定されている場合にのみ設定する必要があります。Cisco Meeting Server 上で Web ブリッジに設定されているのと同じ URI を入力する必要があります。ポートがデフォルトポートの 443 に設定されていない場合は、URI とともにポートを指定します。

フェールオーバー

Cisco Meeting Server のフェールオーバー のサポートも、このリリースで追加されています。代替 IP を TMS で設定できるようになりました。[代替 IP (Alternate IP)] ドロップダウンリストから代替 IP アドレスを選択し、ユーザ名とパスワードを入力してフェールオーバー サポートを設定します。代替 IP アドレスは、クラスタ化 Call Bridge を指定して設定されている Cisco Meeting Server から取得されます。

Cisco TMS での Cisco Meeting Server フェールオーバーのサポートは、開始直前の会議を処理するための機能であることに注意してください。フェールオーバー機能は進行中の会議には機能しません。Cisco TMS では 1 つの代替 IP の設定のみサポートされています。マスター ノードと代替 IP の両方が停止した場合、Cisco TMS はマスター Cisco Meeting Server に含まれる他のクラスタ化された Call Bridge を使用しません。

- TMS で管理される Cisco Meeting Server クラスタ Call Bridge ノードは 1 つだけにする必要があります。既存の TMS が管理する Cisco Meeting Server をクラスタ化する必要がある場合、まず、TMS からノードを削除します。次に、Cisco Meeting Server にクラスタ Call Bridge を設定し、ノードの 1 つを管理対象ノードとして TMS に追加します。
- 既存の Cisco TMS 管理対象 Cisco Meeting Server を非クラスタ化するには、最初に Cisco TMS から管理対象 Cisco Meeting Server ノードを削除してから、Cisco Meeting Server の Call Bridge を非クラスタ化します。Cisco Meeting Server のコンソールで `database cluster remove` および `factory-reset app` を実行して、ノードが完全に非クラスタ化されていることを確認します。
- フェールオーバー中は、代替 Cisco Meeting Server ではなく、プライマリ Cisco Meeting Server が会議イベントログに表示されます。現在のフェールオーバーの詳細は、`log-cmsfailover-liveservice` で確認できます。デフォルトのレベルは INFO です。

Cisco Meeting Server の共存

Cisco TMS では、Cisco Meeting Server を一連のユーザの優先ブリッジとして使用する共存機能が導入されています。この機能は、ユーザのグループを Cisco Meeting Server に移行するために使用されます。すべてのグローバル設定を上書きするもので、`EnableCMSTrial` レジストリによって制御されています。

CMSTrial レジストリが有効になると、「*CMSTrial Mode is enabled. Refer to TMS Release Notes for more information.*」というメッセージが、**[管理ツール (Administrative Tools)] > [設定 (Configuration)] > [会議設定 (Conference Settings)] > [詳細設定 (Advanced Settings)] > [ルーティングでの優先 MCU タイプ (Preferred MCU Type in Routing)]** に表示されます。

共存を作成するには、最初に IP ゾーンをユーザに割り当て、次に Cisco Meeting Server に同じ IP ゾーンを割り当てます。その IP ゾーンのユーザが会議を予約すると、すべての会議が Cisco Meeting Server でスケジュールされます。

EnableCMSTrial レジストリ キーは、デフォルトでは無効になっています。この機能を有効にするには、EnableCMSTrial レジストリ キーの値を 1 に変更します。

Cisco Meeting Server プロファイル

Cisco TMS は、Cisco Meeting Server に Cisco TMS によって作成される callProfile および callLegProfile を 24 時間ごとにチェックします。これらのプロファイルが削除されている場合、Cisco TMS はプロファイルを再作成し、Cisco TMS によって作成された共同スペースとそれらのプロファイルを再度関連付けます。管理者は [設定の表示 (View settings)] ページで [強制的に更新 (Force Refresh)] を実行して、24 時間待つことなく手動でプロセスを開始できます。システムレベルのプロファイルは、TMS によって作成されたプロファイルが削除されている期間中に使用されます。

サポートされない機能

次の機能は、Cisco TMS の Cisco Meeting Server ではサポートされません。

- WebEx 対応の会議
- **会議制御センター**
会議制御センターただし、他のブリッジでスケジュールされている会議の [会議の編集 (Edit Conference)] および [参加者の追加 (Add Participants)] セクションで Cisco Meeting Server を確認することはできません。
- ISDN 帯域幅と ISDN 制限
- ベスト インプレッション ルーティング
- 最小費用ルート選択
- TCS でのレコーディング

[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > [Cisco Meeting Server を選択 (Select a Cisco Meeting Server)] > [ログ (Log)] の下にある **[フィードバック ログ (Feedback Log)]** タブと **[コール ログ (Call Log)]** タブが、Cisco Meeting Server については削除されました。

また、**[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > [Cisco Meeting Server を選択 (Select a Cisco Meeting Server)] > [設定 (Settings)] > [設定の編集 (Edit Settings)]** から **[強制管理設定 (Enforce Management Settings)]** も削除されました。

スケジュールリング

TMS 15.3 にアップグレードすると、事前スケジュールされたミーティングは元の予約済みミーティングと同じように動作します。Cisco TMS では、Cisco Meeting Server 上でミーティングが強制的に実行されません。

Cisco Meeting Server を **[ルーティングでの優先 MCU タイプ (Preferred MCU Type in Routing)]** として **[管理ツール (Administrative Tools)] > [設定 (Configuration)] > [会議設定 (Conference Settings)] > [詳細 (Advanced)]** から選択できるようになりました。

参加者として Cisco Meeting Server を追加し、会議のスケジュールを設定した場合、**[予約 (Booking)] > [新しい会議 (New Conference)] > [詳細設定 (Advanced Settings)]** の **[IP 帯域幅 (IP Bandwidth)]** フィールドは無効になっています。最大帯域幅値である 6144 kbps が選択されます。Cisco Meeting Server には、会議をホストするための帯域幅に制限はありません。

Cisco Meeting Server を追加して新しい会議を予約する場合、次のオプションは **[予約 (Booking)] > [新しい会議 (New Conference)] > [詳細設定 (Advanced Settings)]** でのみ選択することができます。

- [画像モード (Picture Mode)] の [分割表示 (Continuous Presence)]
- [拡張モード (Extend Mode)] の [自動ベスト エフォート (Automatic Best Effort)]
- **[セキュア (Secure)]** の *[可能な場合 (If Possible)]*。

Cisco Meeting Server をメイン ブリッジとして追加し、会議のスケジュールを設定する場合、音声とビデオをミュートするオプションはすべての参加者に対して無効になります。

Cisco Meeting Server の会議および参加者テンプレートのサポートは、TelePresence Conductor に従います。

注記

- TMS 15.3 にアップグレードした後も、事前にスケジュールされたミーティングは、元の予約済みミーティングと同じように動作します。Cisco TMS では、Cisco Meeting Server 上でミーティングは強制的に実行されません。
- 予定時刻の直前に Cisco Meeting Server クラスターのマスター データベースが停止した場合、Cisco Meeting Server で予定されていた会議が正常に開始されない可能性があります。

IX エンドポイントでの電話帳のサポート

IX エンドポイントでの電話帳のサポートが、Cisco TMSfor IX バージョン 8 で追加されました。2. IX に対する電話帳のサポートは、[中 (Medium)] セキュリティ モードでのみ提供されます。

[システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] > [IX エンドポイントの選択 (Select an IX endpoint)] の [電話帳 (Phone Book)] タブが、IX エンドポイントに対して有効になっています。また、[電話帳 (Phone Books)] > [電話帳の管理 (Manage Phone Books)] > 電話帳を選択 > [システムに設定 (Set On System)] で、IX エンドポイントを選択できます。

DX エンドポイントのサポート

Cisco TMS は、DX 70 および DX 80 エンドポイントで CE 8.2 ソフトウェアをサポートするようになりました。

SQL 2014 のサポート

Cisco TMS は SQL 2014 をサポートするようになりました。

NET 4.6 のサポート

Cisco TMS は .NET バージョン 4.6 をサポートするようになりました。

TLS 通信セキュリティの動作の変更

以下の通信セキュリティ モードが、すべての Cisco TMS 接続で拡張されました。

- *中 (Medium)* : Cisco TMS は、HTTPS または TLS 1.0、TLS 1.1、および TLS 1.2 を優先します。
- *[中 - 高 (Medium-High)]* : Cisco TMS は、接続の通信に SSL を使用します。SSL には HTTPS と SSH が含まれます。また、TLS 1.2、TLS 1.1 もサポートされます。
- *高 (High)* : Cisco TMS は、接続の通信に SSL のみを使用し、有効な署名付き証明書があるかどうかを通信時に確認します。また、検証済みの適切な証明書がある TLS 1.2 のみサポートされます。

イマーシブ型 CTS と TX エンドポイントでは、Cisco TMS で動作する *[中 (Medium)]* セキュリティ モードが必要な点に注意してください。

ロシアのタイムゾーン対応

ノヴォシビルスク州のタイムゾーンが北中央アジア標準時間 (UTC+06:00) から北アジア標準時間 (UTC+07:00) に移ったため、北中央アジア標準時間 (UTC+06:00) はアルマトイで表記されるようになりました。

Cisco TMS は次の変更点で更新されています。

- (UTC+06:00) ノヴォシビルスクのタイムゾーンは (UTC+06:00) アルマトイに表記名が変更されました。
- (UTC+06:00) ノヴォシビルスクのタイムゾーンのユーザは、(UTC+07:00) クラスノヤルスクを選択してください。

解決済みおよび未解決の問題

次のリンクをクリックして、このリリースで解決済みの問題と未解決の問題に関する最新情報をご覧ください。

https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283688292&rls=15.3&sb=anfr&bt=cust V

Cisco バグ検索ツールにログインした後、ブラウザの表示を更新する必要があります。

制限事項

機能	制限事項
サポートされるタイムゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ■ Cisco TMS サーバのタイムゾーンを変更することはできません。 ■ DST の日付やタイム ゾーンのリージョンの変更など、国際タイムゾーンの修正は、Microsoft Windows の更新プログラムによって Cisco TMS サーバと Cisco TMS で自動的に更新されます。Cisco TelePresence TE または TC ソフトウェアを実行しているエンドポイントについても同じです。これらのエンドポイントには、手動で定義されたタイム ゾーンのリストがあるため、DST 日付またはタイムゾーン リージョンの変更は反映されません。これにより、直接管理されているエンドポイントでタイムゾーンの不一致エラーが発生する可能性があります。スケジューリングは影響を受けませんが、Cisco TMS はタイムゾーン データの読み取り/書き込みに失敗する可能性があります。
TelePresence Conductor のスケジューリング	<p>TelePresence Conductor は、会議と会議の間でリソースを解放するまでに最大 30 秒待機する場合があります。そのため、参加者が会議への参加と退席を繰り返すと、連続する会議の着信や発信が拒否されたり、使用率が急上昇したりする可能性があります。バグツールキットの識別子: CSCuf34880。</p> <p>この制限は、予定されている TelePresence Conductor および Cisco TMS のリリースで対処されます。</p>
TelePresence Conductor のスケジューリング	TelePresence Conductor の複数クラスタ ノードを Cisco TMS に追加できますが、スケジューリングにはプライマリ TelePresence Conductor のみを使用できます。
TelePresence Conductor のスケジューリング	Cisco TMSPE によって生成されたコラボレーション会議室のスケジュールはサポートされていません。
TSP の音声と会議の拡張	WebEx によって 2 つの会議が同じ TSP 音声番号に割り当てられている場合は、Cisco TMS はそのことを認識せずに会議を拡張するかどうかを決定します。それにより、2 つの会議で音声参加者が同じになる可能性があります。

機能	制限事項
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none"> ■ FindMe と Multiway を使用した会議では、会議制御センターとレポートで重複が発生する可能性があります。 ■ 参加者が保留になっているか、または転送された会議は、会議制御センターとレポートで重複が発生する可能性があります。 ■ 会議制御センターとグラフィカル モニタは、Google Chrome バージョン 42 以上では Netscape プラグイン アプリケーション プログラミング インターフェイス (NPAPI) をサポートしていないため、動作しません。今後のリリースで Netscape プラグイン アプリケーション プログラミング インターフェイス (NPAPI) がまったくサポートされなくなるまで、会議制御センターとグラフィカル モニタを開くために、Google Chrome で次のオプションを試すことができます。 <ul style="list-style-type: none"> a. システムで、管理者としてコマンドプロンプトを開きます。 b. 次のコマンドを実行します。 <pre>reg add HKLM\software\policies\google\chrome\EnabledPlugins /v 1/t REG_SZ /d java</pre> c. Google Chrome を再起動します。 ■ 参加者のスナップショットとイベント ログ データの自動更新 (会議制御センターの機能) は、どのバージョンの Google Chrome でも機能しません。 ■ ミーティングの詳細は、次の場合に会議制御センターに段階的に表示されます。 [通信セキュリティ (Communication Security)]が [高 (High)]に設定されている場合です ([TMS ツール (TMS Tools)]>[セキュリティ設定 (Security Settings)]>[トランスポート層セキュリティのオプション (Transport Layer Security Options)])。 パフォーマンスを向上させるには、次のいずれかを実行することをお勧めします。 <ul style="list-style-type: none"> - [TMS ツール (TMS Tools)]>[セキュリティ設定 (Security Settings)]> [トランスポート層セキュリティのオプション (Transport Layer Security Options)]で、[通信セキュリティ (Communication Security)]のセキュリティモードとして [中 (Medium)]または [中 - 高 (Medium-High)]を選択します。 - 会議制御センターのユーザ数を[通信セキュリティ (Communication Security)]が [高 (High)]に設定されている場合は減らします。
WebEx	<ul style="list-style-type: none"> ■ CMR Hybrid に対する高度な定期的パターンはサポートされません。[新しい会議 (New Conference)]ページから予約する場合は、Webex を含めてから、サポートされている定期的なパターンのみが表示されるように定期的なパターンを指定してください。 ■ 1 つのインスタンスが進行中に定例会議シリーズを削除すると、Cisco TMS では会議が削除されますが、WebEx では削除されません。これは、WebEx が進行中の会議に変更を許可しないためです。これには削除が含まれます。 ■ Cisco TMS ツールで [通信セキュリティ (Communication Security)]のオプション [中 - 高 (Medium-High)]または [高 (High)]を選択すると、Cisco TMS の一部またはすべての機能が失われます。 ■ 会議が WebEx で予約されている場合、後で Cisco TMS で会議の所有者を変更すると、会議の所有者の詳細は Cisco TMS でのみ反映され WebEx では反映されなくなります。さらに、Cisco TMS で会議を更新しようとすると、エラーが発生する可能性があります。
コラボレーション エッジ	Cisco TMS は現在コラボレーション エッジの背後にあるデバイスをサポートしていません。
Expressway	Cisco Expressway-C と Cisco Expressway-E は、システム タイプ TANDBERG VCS を使用して Cisco TMS に表示されます。

機能	制限事項
[システムタイプ (System Type)] フィールド	以前に TANDBERG がシステム タイプに含まれていた一部のシステムが、Cisco TMS に引き続き TANDBERG として表示されることがあります。これはシステムの API からシステム タイプを直接読み取る Cisco TMS に主に基づいています。API を介して使用できなかったシステム タイプが追加されることがあります。そのため、その名前とシステム タイプ TANDBERG が表示され続けることがあります。
下部バナー	Cisco TMS ツールで下部バナーが有効になっている場合、Internet Explorer 10 で Cisco TMS Web アプリケーションを使用して、強化されたセキュリティ設定を有効にすると、ウィンドウの下部にあるリンクとボタンが無効になります。
Cisco TMSPE が Cisco TMS と通信できない	Cisco TMS 15.3 で新しいセキュリティ モードが [高 (High)]に設定されている場合、Cisco TMSPE は Cisco TMS との通信に失敗します。 この制限は、Cisco TMSPE の将来のリリースで対処されます。
TelePresence Conductor のクラスタリング	<ul style="list-style-type: none"> ■ プライマリ TelePresence Conductor が停止した場合に、エイリアスに対するフェールオーバーはサポートされません。プライマリ TelePresence Conductor が停止しているときに管理者がピア TelePresence Conductor の一部のエイリアスを変更した場合、プライマリ ノードがアクティブになるまで、ピアの TelePresence Conductor のエイリアスを TMS で更新することはできません。 ■ このリリースでは、プライマリ TelePresence Conductor からのフィードバックのみが Cisco TMS によって処理されます。これは、プライマリ TelePresence Conductor が停止している場合に、アドホック解決が影響を受ける可能性があることを意味します。 ■ このリリースでは、スケジューリング、ルーティング、およびロード バランシングのためのクラスタ化された TelePresence Conductor のサポートはありません。
IX エンドポイント上の電話帳	IX エンドポイントを追加すると、Cisco TMS はソフトウェアバージョンを検出できません。 [システム (Systems)] > [ナビゲータ (Navigator)] の下にある IX エンドポイント向けの [電話帳] タブは、バージョン 8.2 に対してのみ設定できます。8.2 より古いバージョンを追加する場合、IX エンドポイントでは Cisco TMS の電話帳データを取得できません。 電話帳を設定してエンドポイントから使用するには、IX バージョン 8.2 を追加する必要があります。
仮想マシンでは、次の製品バージョンのネットワーク接続が断続的に途絶えます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ VMware ESXi 5.0.x ■ VMware ESXi 5.1.x ■ VMware ESXi 5.5.x ■ VMware ESXi 6.0.x 	E1000/E1000e ドライバを使用する Windows 2012 仮想マシンでは、ネットワーク接続の損失が発生します。この問題は、次の環境で発生します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 仮想マシンは Windows 2012 または Windows 2012 R2 です。 ■ 仮想マシンでは、E1000 または E1000E ドライバが使用されます。 この問題の回避策は、E1000 または E1000e ドライバではなく VMXNET3 を使用することです。詳細については、次の記事を参照してください。 https://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2109922
Cisco TMS での会議のスケジューリング	24 時間以上スケジュールされた会議と重複している定例会議は予約できないことがあります。 Bug Toolkit の ID : CSCux64873.

機能	制限事項
Cisco Meeting Server 会議終了通知	会議終了通知が Cisco Meeting Server でサポートされていないため、Cisco TMS では会議終了通知を Cisco Meeting Server にプッシュしません。ただし、TMS が管理するエンドポイントは、Cisco Meeting Server でホストされている会議の通知を引き続き TMS から受信します。
Cisco Meeting Server ステータス	会議の進行中に Cisco Meeting Server が停止したときには、 [会議イベント ログ (Conference Event Log)] に [メインシステムからの応答なし (No Response from Main System)] というログは表示されません。
システムの追加	IPv4 と IPv6 の場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ Cisco TMS は IPv4 でシステムを追加します。同じシステムを IPv6 で追加することもできます。その逆も同様に可能です。 ホスト名と IPv6 の場合： <ul style="list-style-type: none"> ■ ホスト名を使用して Cisco TMS に Cisco Meeting Server を追加する場合は、別のシステム ID を使用して同じ Cisco Meeting Server を IPv6 で Cisco TMS に追加することもできます。
延長時のリソース可用性チェック (Resource Availability Check on Extension)	[延長会議モード (Extend Conference Mode)] を [自動ベスト エフォート (Automatic Best Effort)] に設定した状態で [延長時のリソース可用性チェック (Resource Availability Check on Extension)] を [無視 (Ignore)] に設定し、 [参加者に対し早期接続を許可する (Allow participants to Join Early)] を [はい (Yes)] に設定した場合、会議の参加者のうち 1 人がポイント ツー ポイント ミーティングに参加していると、予期せぬ結果が発生する可能性があります。

相互運用性

この製品の相互運用性テスト結果は <http://www.cisco.com/go/tp-interop> に掲載されています。ここでは、他の Cisco TelePresence 製品の相互運用性テスト結果も確認できます。

15.3 へのアップグレード

アップグレードする前に

冗長展開

Cisco TMS の冗長展開を利用している場合は、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレードガイド 15.0](#)』を読んでから、Cisco TMS15.3 にアップグレードする必要があります。

14.4 または 14.4.1 からのアップグレード

Cisco TMSXE または Cisco TMSXN を使用する 14.4 または 14.4.1 からアップグレードする場合は、Cisco TMS15.3 にアップグレードする際に、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレードガイド 15.0](#)』 [英語] で説明されているアップグレード手順に従う必要があります。

14.2 より前のバージョンからのアップグレード

バージョン 14.2 以前のバージョンの Cisco TMS からアップグレードする場合は、Cisco TMS15.3 にアップグレードする前に、『[Cisco TelePresence Management Suite のインストールおよびアップグレードガイド 15.0](#)』 [英語] のアップグレード手順を参照する必要があります。

前提条件とソフトウェアの依存関係

互換性のあるオペレーティングシステムとデータベースサーバの完全なリストについては、『[Cisco TelePresence Management Suite インストレーションおよびアップグレードガイド](#)』を参照してください。

アップグレード手順

Cisco TMS は、Cisco TMS の新規インストールと以前の Cisco TMS バージョンのアップグレードの両方に同じインストール プログラムを使用します。

アップグレードまたはインストールの完全な手順については、『[Cisco TelePresence Management Suite インストールおよびアップグレード ガイド](#)』を参照してください。

Bug Search Tool の使用

バグ検索ツールには、問題の説明と利用可能な解決策など、このリリースおよび以前のリリースの未解決の問題と解決済みの問題に関する情報があります。これらのリリース ノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを使用して、バグ検索ツールに移動します。
 2. cisco.com のユーザ名とパスワードでログインします。
 3. **[検索 (Search)]** フィールドにバグ ID を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。
- ID がわからない場合に情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. **[検索 (Search)]** フィールドに製品名を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。
2. 表示されるバグのリストで **[フィルタ (Filter)]** ドロップダウンリストを使用し、**[キーワード (Keyword)]**、**[変更日 (Modified Date)]**、**[重大度 (Severity)]**、**[ステータス (Status)]**、**[テクノロジー (Technology)]** のいずれかでフィルタリングを行います。

バグ検索ツールのホーム ページの **[詳細検索 (Advanced Search)]** を使用して、特定のソフトウェア バージョンで検索します。Bug Search Tool のヘルプ ページには、Bug Search Tool の使用に関する詳細情報があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

資料の入手方法、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用方法、サービス リクエストの送信および追加情報の収集方法については、『[What's New in Cisco Product Documentation \(Cisco 製品資料の更新情報\)](#)』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> [英語]) を参照してください。

Cisco 製品資料の更新情報には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルがすべて表示されます。この RSS フィードを登録するか、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツを直接デスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェアライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。全著作権所有。著作権©1981、カリフォルニア大学理事会。

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジー図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2016 Cisco Systems, Inc. 全著作権所有。

シスコの商標

Cisco および Cisco のロゴは、米国およびその他の国における Cisco およびその関連会社の商標を示します。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)